

通勤・通学・買い物におけるマイカー抑制とバス利用促進事業のTDM実証実験 (埼玉県久喜市)の概要(平成14年10月～平成16年3月)

背景

久喜市は、鉄道により市の東西が分断されており、踏切以外に直接東西を結ぶ道路は県道久喜・幸手線の高架道路だけで、平日の駅周辺及び大型の商業施設が集積している県道久喜・幸手線には周辺地域から交通量が集中し、特に休日は著しい渋滞が生じている状況である。こうしたことから、駅周辺の通勤・通学時の交通混雑緩和や休日の商業施設周辺における交通集中の緩和等の対策として、CNGバスを利用した久喜市内循環バスを運行するとともに、市内循環バスの再編・整備に併せ、自家用車から市内循環バスへの利用転換について検証する。

申請者 久喜市

主な実験内容

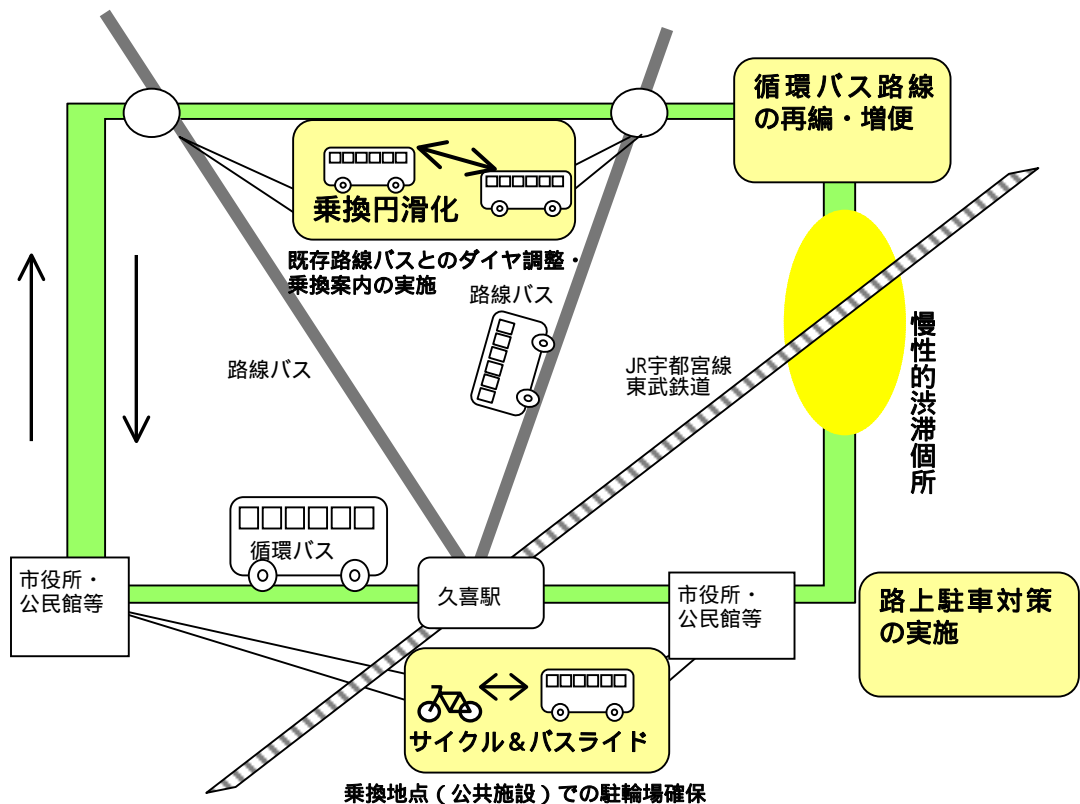
市内循環バス路線の再編・高頻度化(2系統 7系統 12便 65便)

運賃は100円で、市内循環バス同士は1回に限り乗り継ぎが可能

市内循環バス利用者のための駐輪場の確保によるサイクルアンドバスライドの促進

主に通勤・通学時のバス利用促進のため、市内3ヶ所に駐輪場を確保

駅周辺における路上駐停車対策の実施



関係行政機関等によるTDM実験への支援(関東運輸局、関東地方整備局、埼玉県警察本部)

実験の成果

平成14年度の1便当たり平均乗車人員は4.84人であったが、平成15年度では6.15人と増加している。
市内循環バスは65便が久喜駅及び市役所を起点に、主な公共施設等を網羅しているため、利用者の満足度は高い。
サイクルアンドバスライドを推進することについては、「自家用車の利用を控えたい」とする人がモニターの半数以上を占めた。

実験後の状況

現在も実験期間中と同様にバス4台による7コース65便が運行されている。
サイクルアンドバスライド施設(駐輪場)についても、実験期間中と同様に利用されている。
イベント等の開催や土日のレジャーや買い物などに循環バスを活用してもらえよう、イベントのチラシ等に循環バスの時刻表を掲載し、利用増を図っている。